うえだ

上田高等学校関東同窓会事務局

第34号
11月1日
（金曜日）
昭和60年
（1985年）

—発行所—
上田高等学校
関東同窓会事務局
—発行人—
会長　神野勝男（36）
〒274 千葉県船橋市前原西
2－32－15 神野文芸学院内
電話 0474－74－0543
編集人　浅野恭平（37）
塩字は故福垣征夫氏（14）

にぎやかに第24回総会

新卒女性を左右に吉井大先輩のカンパイ音頭

受付にも女性がズラリ、とまどう歌中派先輩

美しい"後輩"を確保して癒しそうな先輩たち

総会は午後六時に始まったが、それに先立つ5時二十分から「世界経済研究協会理事長（36期）の講演が行われた。テーマは「日米経済摩擦について。総会で記念講演

韮沢氏（36期）大活躍——中央でリードするハッピ姿一円内は講演中の同氏

関東同窓会第24回総会は六月五日（水）新緑けむる皇居濠の半蔵門東條会館で開かれ、会史上初の女性副会長が大拍手で選任されたほか、招待新卒生の出席がはじめて八十名の大台に乗る盛況だった。

基金作り、満場一致

初の女性副会長を選任

をうつの初の試みで、時間も早いので出席率が心配されたが、上田の本部からかつけた金子四郎会長をはじめとする会員幹部の方から続々とつめかけ百人を超すかにこえる盛況。韮沢氏もこれにこたえて当日の最大関心事のホットな話題を惜しみなく伝え深い感銘を与えてくれた。

さて肝心だが、今朝の重要な主題は「運営基金の募集」である。神野会長から会計政の現状とその安全確立のために現行会費の設定が是非必要である旨の説明があった。すでに会報で詳細発表済みであるが、再度ご参考に詳細説明がなされていることもあり、質疑はむしろ役員からおよび基金額別各々の激励となり、満場一致で可決され、向こう二年間にわたり、会員一人一口以上、目標総額金二百万円という基金運動がスタートすることになった。

その他の議題、会務報告、会計報告ならびに監査報告、60年度予算案についても指摘事項の説明でスムーズに討議が進行し、いずれも原案通り承認または可決された。

懇親会は空前の盛り上がり

午後七時、恒例の一大懇親会が始まった。母校から松本校長先生はじめ新卒担当の各先生、本部同窓会から金子会長、遠藤事務局長（36期）ならびに役員、加えて在京の各支部校招待した新卒生もはじめて八十名（過半が女性）の大台に乗る祝う、空前のにぎやかさになった。

講演を終えた東沢氏は着席のご挨拶をはじめ、神野会長の懇談を引き継ぐハッピに鉢巻きで登壇、同窓会歌や六文銭旗を打ち振って校歌の大合唱をリードしてくれた。

宴たけなわのころ、神野会長の懇談動議で新副会長に53期金子節子氏を追加選任の伴い上程され、これで史上初めて両性の女性役員が誕生した。母校生徒も女性が激増している。今後とも同窓会活動に女性の積極参加を求めて行く方針が招待した新卒生もはじめて八十名（過半が女性）の大台に乗る祝う、空前のにぎやかさになった。

募金、本格活動へ

詳細な趣意書も完成

「運営基金」設定が総会で決定されたが本部に活動してもらうのでは会の場合は幹事が要請されば、必要部数を郵送する。大いに活用してもらいたい。

募金期間はなお一年半を残している。各個幹事、会員の本格的協力はこれからと言えよう。よろしく願う。（神野）

上信越高原国立公園・新鹿沢温泉
ホテル つちや
TEL 02799-8-0314

土屋　勉（41期）

原稿をお寄せ下さい

一、同窓会などの会合は必ず文はくだんべん。一本手で編集にして下さい。面倒なほどにおねがいます。

一、表題事業の意見をもとに詳細承知の上自筆、場所、出席者だけでも結構です。

一、エッセイ、詩歌お引き受けいたします。

一、原稿は二字詰め、スペースを6－15－5浅野恭平。電話92412116

同窓諸兄へ　元気な41期生です

60.6.22　新鹿沢温泉つちや旅館でクラス会

手塚　弘造　久保田　昇　宮下　俊夫
正村　鉄夫　春原　清明　高森　淳
甲田　英久　沓掛　喜八　阿部　雅也
和田　公平　柳沢　信　田中　稔治
田子　檀　工藤甲子太　生島　信夫
宮坂　啓　中曽根幸夫　白鳥　武
葦山　次雄　小島　栄三　小林　剛
美斉津昌夫　竹花　慈宏　坂田　靖人
宮川　実　柳田　薫　甲田　睿
大塚　徹　土屋　勉　母袋　信吾
太田慎一郎　増田　信夫　柳田　正
舟見甲子郎　金井　彰

運営基金応募 第1回

＝60年10月15日現在・敬称略＝

【京葉同窓会】三万円
【在京啓明会】二万円
【20期】二万円　吉井道教
【21期】三万円　島田次郎
【23期】二万円　大森頼雄▽松平忠久
【24期】二万円　石井操▽石川秀敏
【25期】九万円　有賀正一▽石井正己▽石井義雄▽大谷邦康▽岡村盛太郎▽児玉晃▽後藤政一▽鈴木孝▽高島兵庫▽萩野喜次▽馬場長市▽福田勝之助▽三井忠直▽宮入博▽三宅貞治▽母袋徳太郎▽柳田昌一▽山岸仗▽吉池良三
【29期】二万円　坂井実雄
【30期】一万円　原　相模
【31期】五万円　矢島五郎▽柳達雄▽小宮山庄三▽赤沼進吾
【33期】七万五千円　北村春雄▽関透▽中村辰男▽鈴木真二▽佐藤三義▽橋本利政▽弘世弘信▽柳沢巽
【34期】一万円　真峯秀雄
【35期】一万円　関輝雄
【36期】二十五万円　伊藤稔寿郎▽岡木博美▽尾崎毅▽曽藤義久▽北村秀夫▽小林正登▽清水谷孝尚▽神野勝男▽滝沢克己▽田村和義▽田中良夫▽田中六郎▽韮沢嘉雄▽深井安児夫▽松島久▽松野正▽丸山英人▽武捨久雄▽村山一郎▽山本五助▽坂口政義▽松井智明▽半田孝康▽山城光雄
【37期】四万円　新井邦夫▽浅野恭平▽柳田誠
【38期】一万円　白井広重
【39期】一万円　長藤勝
【40期】三万円　吉田節生
【41期】二万円　白鳥武▽斎藤好
【43期】一万円　両沢卓蔵
【44－4期】二万円　峰村昭三▽星野賢造
【47期】一万円　上原享
【48期】一万円　春原寛
【49期】一万円　牧内泰道
【50期】二万円　金井忠雄
【53期】一万円　金子節子
【66期】二万円　平野成基
【68期】一万円　土屋耕太郎

合計　九十万五千円

『基金管理委』発足

幹事会　次回は一月新年会

九月二十日、幹事会が健保会館でひらかれ、去る第二十四回大会の反省、運営基金の件を中心に当面の課題を討議した。主な内容は次の通り。

【大会について】

①会計長の報告（別項）を了承、無断欠席者からは事後に会費をとるべきだとの意見が強く出されたが、技術的にむずかしい点もあり、役員が何らかの案を立て、明年春に予定される幹事会（総会準備の会）で改めて討議する。

②テーブルを卒業期別にしてきたが、出身地区別にする方が熟知の先・後輩の歓談によいとの意見があり、明年の大会で考慮することにした。

【運営基金について】

①神野会長から基金の応募状況ならびにこの件についての代表幹事会の報告があり、幹事会としてもさらに協力して行くことを申し合わせた。

②基金特別委員会の活動を助けるため、各期毎に同窓生名簿作りが進んでいるが、これをさらに充実する。

③基金運営について、その厳正な運営と元本保全を確実にするため、基金特別委とは別に「管理委員会」を作ることがきまった。委員会の人選構成は会長一任となり、別項のメンバーがきまった。

④基金をすすめるため、会報でのアピールのほかに「趣意書」を作ることにきめた。

その他の主な討議と決定事項つぎの通り。

大先輩の年会費免除　二十五期までに拡大

①大先輩に敬意を表するため、これまで二十期以前の方について年会費をいただくことを遠慮してきた。すでに十年近く続いている。そこで改めて二十五期までの大先輩についても同様にしたい旨、神野会長から提案があり、満場一致で決定された。

②今後の行事として▽12月27日（日）上田えぼし会▽明年1月24日（金）新年拡大幹事会▽4月4日（金）大会準備幹事会の開催がきまった。

③会報第34号（本号）の発行について浅野副会長兼編集委員長から説明と報告があり了承された。また会報の広告募集については現在各期毎の担当になっているが、その総括責任者として「広告委員」が新しく編成された。

委員長36伊藤稔寿郎、委員52青柳位紗男　62秋田勇　67坂口公一　68土屋耕太郎

当日の出席者次の通り。

21吉井道教　25馬場長市　29鎌原義則
24石井操　28坂井実雄　29井村薫
30原相模　31小宮山庄三　33橋本利政　35渋沢元則　36清水谷孝尚　36小林正登　37浅野恭平　37柳田誠　38矢島勇雄　39長藤勝　41川尻悦三　41斉藤好一　43上野敏雄　44原島佐吉　44堀内茂雄　46三井周
31矢島五郎　33弘世弘信　35石倉謙一　36神野勝男　36伊藤稔寿郎　36山本五助　37新井邦夫　38清水幾男　39渋沢芳三　40丸山英一　41宮下俊夫　42横山誠之助　43松園裕　44成田登男　44星野賢造　47香掛元砥
48山崎延秋　48堀内惇　52町島元喜　53金子節子　54馬場武彦　68小林照明　80今井隆志
48中沢利雄　50五十嵐明迪　52青柳位紗男　54小市則夫　58赤池三男　68土屋耕太郎　47三井芳郎

代表幹事会　基金で討議

九月の幹事会に先立ち、八月二十九日代表幹事会が健保会館で開かれた。代表幹事は各期幹事の互選により一名がその期の幹事（複数が一般）を代表するもので、その会合は初めてである。

議題は運営基金の件で、募金をいかにして展開するか、活発な意見が交換された。そのためには、まず同窓生の掌握が第一なので、各期毎に非会員を含む同期生名簿を作りこれを本部を通じて基金特別委の清水谷委員長の手もとによせることにした。

また基金の厳正な管理のため管理専門の委員会を作ることが提案され、九月の幹事会できめることになった。

基金管理委

九月二日の幹事会で委嘱された「基金管理委員会」のメンバー次の通り。

委員長　31期　土屋　学
副委員長　32期　中村礼三
委員　33期　弘世弘信
同　34期　砂田昌寿
同　36期　山本五助
同　37期　新井邦夫
同　39期　渋沢芳三

管理委員会は基金特別委が主体となって集めた基金を厳正に管理する。その目的を果すため募金業務と管理業務を切り離したものである。集った基金はこの委員会の完全管理下に入り、委員会は元本の保全と利子の本部会計繰り入れを担当する。

出欠の返信には責任を

24回総会、独立採算つまずく

今年の定期総会は残念ながら大幅な赤字決算になった。九月二十日の幹事会に報告したが、つぎの通りである。

▽当日出席者　二四一人（有料会員二三七人）
▽収入　一〇七・四万円
▽支出　一三四・九万円
▽差引不足　二七・五万円

総会を独立採算とするのは会財政安定のためぜひ必要である。昨年はほぼ実行できたが、今年は苦い結果になった。申しわけない。不足分の処理については本年度予算の総ワクの中で他の費目の節減、会報広告の増収などをはかって行くことにしたい。幸い、本年度予算は総会費として一二五万円を計上しているので、予算執行上からいえばさきの赤字額は約十万円に止まる。しかしこれは帳簿数字上の操作にすぎない。

赤字を生んだ原因は、出席通知を寄せた会員のうち、当日になって断りなしに欠席した者が多かったためである。二割をこえる欠席率だった。

この種の会合では当日の無断欠席は会計上たいへん困る。その人の分まで飲食物を用意して置くのに会費が入らないからである。無断欠席は〝むろんこれまでもあったが、例年ごく少数だった。今年それが急増したのは誠に残念である。それぞれ事情はあったろうが、会計担当者としては、事前に出席取り消しを一報してもらいたかった。

総会は来年もある。今年の無断欠席者の猛省をうながすとともに、明年の出席返信については、より一層の自覚と責任を持っていただくことを切望してやまない。（会計長・39長藤勝）

広告のご協力有難う

本三十四号の広告は担当の32期、41期の絶大なご協力で予定をはるかに超える段数をいただきました。去る総会会計が赤字の折りから、会財政への貢献が大きく、誠に有難うございました。

次の三十五号は34期と42期、三十六号は43期、三十七号は44期の担当がきまっております。広告は何も営業に限りません。本号や前号のように同期会を活用されると集まりやすいと思います。どうぞよろしく。（広告部長・36伊藤）

『柔和会史』出版祝賀会開く

新緑がお堀の水に映える六月二十三日（日曜日）、母校の柔道場において柔和会の総会が行なわれた。また約十年の歳月を費やして完成した「上田高校柔和会史」の出版記念祝賀会が会場を大手町の上田温泉に移して、来賓、会員七十余名の出席を得て盛大に行なわれた。

総会は小林重治（37期）幹事の名司会により開会。まず横関展雄（23期）会長、坂田隆雄（26期）東京柔和会長よりそれぞれ挨拶があったあと、今回の総会と会史出版祝賀会を開催するに至った経過の報告が山寺豊一（31期）幹事長から要領よく行なわれ、小林郷司（40期）東京柔和会幹事長からは在京の柔和会の近況報告があった。

総会には在校の柔道班員約三十名が参加、会場の設営、受付、その他を若い力を結集して手伝ってくれ柔和の意義をたかめてくれたことに対し感謝の意を表したい。

またかねて新道場の完成記念に卒業会員の名札約二百五十枚を戦前、戦中の諸兄まではすでに掲げたが、このたび戦後の会員の名札約二百五十枚をさらに掲げ、現在、総計約五百名の数を誇っていることはまことに喜ばしい。

柔和会史出版記念祝賀会は総会に引き続き上田温泉で小林睦男（39期）幹事の司会により開かれ、羽田代議士の祝辞に始まり、ついで金子八郎（39期）同窓会長、柳沢文秋（27期）前同窓会長の愛情溢れる祝辞をいただいた。乾杯の音頭は宮原栄吉（30期）青木村村長。また、柳沢廣（44期）東京柔和会副幹事長の音頭で柔道部の歌、校歌、寮歌、凱歌を大合唱、心あたたまる〝うたげ〟は老若の心をしっかりと結びつけた。

とりわけの感激は、部歌の作詩者である故小池益夫（22期）先輩の娘さんである水野上田市長夫人が総会から祝賀会まで参加され、かつてのお父さんと同様の体験をされ、共に肩を組み部歌の大合唱の輪に加わって下さったことである。

なお、毎日新聞郷土版の新刊紹介に「上田高校柔和会史」が好評掲載されたことを付け加えておきたい。

（軽井沢にて　44　柳沢廣）

久しぶり「わんだれ会」開く

久しく途絶えていた「わんだれ会」が七月十七日、十月十七日と二回開かれた。会場はそれぞれ銀座と池袋。矢島五郎前支部長はじめ有志約二十名、それに染谷丘高校出身の女性有志五～八名も参加、にぎやかに親睦を深めた。

この会は会則も役員もない全くのフリーな集まりで、長年にわたり矢島前支部長の経営する西川口の会社事務所を会場に、毎月第一水曜日に集まり談論風発を続けてきた。都合により中断していたが、再開を望む声が高いので、会場を随時移し、世話係もその都度交替して開くことになったもの。

次回は十二月四日の予定だが会場は未定。参加希望の向きは十一月下旬ごろ矢島前支部長に連絡されたい。

社団法人　千曲寮
三鷹市下連雀6－6－30
☎　0422－46－0726
理事長　高見沢　澄　平（32期）
理　事　浅　井　敦（32期）

食料・農業の問題解決に貢献する
株式会社 ゲン・コーポレーション
ハイデオ事業部　バイオ製薬事業部　イースタン事業部
エーアイラボ事業部　アグリパワー事業部　バイオフロンティア事業部　九州事業部
取締役顧問　田　中　稔　治（41期）
本社　〒501－11　岐阜市折立296－1　☎0582－34－0777代　FAX0582－34－0892
東京支店　〒107　東京都港区南青山3－18－14　☎03－405－5611代　FAX03－405－5618

新立川航空機株式会社
顧問　村　上　寅　雄（32期）
本　社　立川市高松町1丁目100番地
☎　0425－24－6061（代表）

真田の跡をたずねて

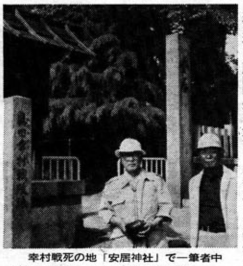
大阪から九度山へ

上田以上の真田びいき

32 中村礼三

テレビで『真田太平記』が進行している。毎回欠かさぬ同窓生も少くあるまい。育ちは争えない。画面に六文銭の旗がひるがえると、老骨の血がさわぐのは我ながら笑止である。

追い追い九度山閉居から大阪の陣、そして幸村戦死となるわけだが、二年ほど前その旧跡をたずね歩いたことがある。道中痛感したのは、大阪、紀州の人々が今でも真田へ寄せている敬愛と温かい心情だった。地元上田よりも強い。参考までにその小さな旅のてんまつを報告する。



幸村戦死の地「安居神社」で一筆者中村氏（左）と同行の中山氏（35期）

幸村公戦死の地

二年半前の陽射しの強い五月のある日、私たちは大阪天王寺区逢坂にある安居神社境内の一隅に立っていた。木もれ陽の落ちている木立の蔭、苔むした土垣の上に若い一本松がある。その根元近くに、平仮名で「さなだ」とかすかに判読出来る小さな石柱があった。ここが真田幸村の戦死の跡とされている。

同行者は中山順蔵（35）、馬場武彦（54）の両氏である。社殿より少し奥まった右側の一角に真田幸村戦死跡之碑と刻んだ三米余りの立派な自然石が建っていてその傍に説明の木札が立つ。文面は幸村奮戦を述べたあと次のように結んでいる。

「（幸村は）ついに当社境内一本松の下で戦死した。時に年齢四九歳であった。当時の松は既に枯死したが社殿復興を機に昭和二六年四月二四日これを記念して植樹さる。例年五月七日幸村祭が盛大に行われる」

九度山の真田庵

つぎの目的地、九度山町へ向う。その夜は同町の両氏の親戚宅に泊り多大の歓待をいただく。翌朝、車で真田庵を訪れる。意外に狭い横町である。真田紋の瓦が乗っている白塗りの土塀沿いに歩くと間もなく何の変哲もない木造の門があった。「紀州の国十三番霊場真田庵」という木札が掛っている。

境内はあまり広くはない。右側に与謝蕪村の句碑があり「かくれ住んで花に真田の謡かな」と刻む。蕪村の訪れたのは、はなやかに散る桜の季節であったのかも知れない。

庵の前庭に石柵に囲まれた小さな社殿らしきものがあり、真田昌幸の墓と記した石柱が建っている。奥に宝塔型式の墓石が三基ほど見えた。

庵主さんは金沢大学出身の若い尼さんである。丸坊主の頭が痛々しい。記念に真田紐やら手拭などを求め、若干のお布施をおいて暇を告げ山門を出かかったとき、門の内側にかかっていた真田庵由緒と書いた額文に気がついた。つぎのように書かれている。

「真田庵は真田昌幸公及幸村公の旧蹟である。昌幸公は信州上田の城主で智謀百出の名将であった。関ケ原合戦で豊臣家に仕へ天と地の利を失って惜敗した。一時、高野山に遁れ其後、寺領高野山に侘び住居を持った。昼は農耕に努め又真田紐を編み、夜は天文気象を究め文物理を学び只管軍略の研究に努められた。慶長十八年戦争の危機迫り翌元和元年五月七日大阪夏の陣に出陣、屡々大功を建てたが武運拙く戦死された。毎年五月五日を記念し真田祭を執行して英霊を慰む」

この額文では昌幸が九度山で慶長十六年六月四日六五歳で死去した事は何も書いてない。やや筆足らずにはいささか戸惑いを感じた。

高野山蓮華定院

さて、高野山である。九度山からはごく近い。若い庵主から頂いたキーホルダーを胸に急いだので昼までには着いた。昼食もそこそこに四時間近く各所を歩き回って陽も稍々かたむくころ、高野杉や槙の老大木の連なる参道を下る両側には諸国の諸大名や有名俳優の墓所が続いている。途中、真田の墓所を見うける。ときどき何処かで蛙の鳴き声が聞える。

今夜の宿は蓮華定院と決めてある。最上の宿泊を頼んだが、食事の内容にはがっかり。

出立の間際に昨夜のお布施が利いたのか上田の縁からか、私どもだけ院主様のお部屋に通され茶菓の接待を受け、バスにて高野山駅に下がった。

この道中は私の長年の念願であったので誠に意義深い旅となった。諸兄も一度は巡拝することをおすすめしたい。蓮華定院は古くから東信とつながりが深く、壇家があり、同行の馬場氏の実家も縁故があると聞いている。以上、昭和五十八年五月二十一日のことである。

夢のような数字

40年前の校友会誌をみて

41 宮下俊夫

東京青山会館での同期会の席上、計らずも在校当時の校友会誌を一冊手にすることが出来た。武井宏雄君（上田図書館勤務）の持参である。

戦時下の校友会の行事等を思い起し、諸兄の参考になるのではないかと思い、一端をご紹介します。

▽昭和十五年度校友会誌に発表の歌二曲

【上田中学校報告団歌】

一、人生意気に感じては
一剣寒し千曲川
義に殉じては烈々の
赤心旗幟の色に染む
松尾ケ丘の松籟に
稟烈の声聞かんとき
秋冷瓏の空衝きて
謳へ健児等その節義
（以下略）

【上中健児の歌】

一、げに浅間の峰に黒煙高く
西にアルプス夏なほ白し
仰げよわが友信濃の空を
吾等　われら　われら
上田中学希望は高し
（以下略）

前者はたしか先生の作詩でした。当時同期の武井宏雄君の歌が当選し、小学校以来の同級生の栄誉に羨望の思いとともに彼の才能を見直したことを記憶しています。

次に十五年度校友会決算が出ています。それによると、▽収入七千二百六十五円十五銭▽支出七千二百五十五円四十二銭となっています。各部への予算支出は次の通りで、現在のクラブ活動と比較すると時代の変遷、物価の変遷がよくわかります。

【部費内訳】（単位円）

▽文庫部四三三▽編集部三四八▽絵画部一〇▽柔道部三四八▽剣道部五七七▽弓道部一八四▽競技部三二八▽蹴球部三五二▽庭球部二六〇▽野球部六八〇▽水泳部二〇四▽山岳部一〇〇▽射撃部一五一▽弁論部八▽郷土研究部八七▽東亜研究部二五▽体育部三一九▽マラソン部三〇

年中行事のマラソン大会で〝上田飛行場（今の千曲高校）をスタートし、校門迄たどりついた後の甘い麦茶のうまかったことは今も忘れませんが、その時の費用が三十円だったのです。まるで夢のようでさまざまな思いがこみ上げます。なお当時は授業料月額四円、校友会費同一円でした。

大先輩小山敬三先生

36 伊藤稔寿郎

九月二十三日NHK教育テレビの「小山敬三アトリエを訪ねて」を拝見、軽井沢山荘および懐古園の敬三美術館で対談に応じていらっしゃる先生のまなざしが非常に印象的で、過ぎし日の事がなつかしく思い出され筆をとりました。

小山敬三先生―この偉大な先輩（大正四年三月卒、第十四期）とは、私が終戦後小諸高等女学校の教諭をしている頃、先生の御生家、即ち先生の長兄の今は亡き小山邦太郎先生の御本宅に起居させて頂いておりましたので、時々、本宅に御嬢様とお見えになる先輩とお会いする事が出来ました。

当時、夢の中では色は見えないという心理学者の話を聞きましたので、その事を先生に質問しました。

「いや、僕は夢で色をみますよ。今でも、パリー郊外の田園の緑に赤い風船の飛んでいる夢をみますよ」と先生がおっしゃるので、流石、一流画家はちがうもんだなあと感じた事など思い出しました。

先生の御生家の小山家には、父上の久左衛門翁の「久」と長兄の邦太郎先生の「邦」の字をとった「久邦会」という会があります。この会は酢久商店、信州みそ㈱（社長39期小山正邦氏、副社長47期小山庫荷供氏）に在籍した人、小山家の関連事業に従事した人、小山先生を敬慕する人等で組織されております。

昭和五十一年の久邦会は東京が当番で、石井照二さん（酢久商店元支配人、地久拓建社長）が凡て立案実施され私も参加させて頂きました。

五月十三日会員は懐古園の敬三美術館で絵を鑑賞し、御牧原の天池、女神湖、水源等をめぐって邦太郎先生の業績を偲び、その夜浅間高原ホテルでの総会に臨みました。そのとき、石井照二氏が敬三先生に講演をお願いしました。いまだに鮮明に思い出されますので、お話の趣旨をご紹介します。もとより拙文、筆の足らざるはお許し頂きます。

茅ケ崎のアトリエに美術関係の記者が見えると、健康の秘訣は何ですかと聞かれます。私はそのとき、特別なことは何もありませんが、強いていえば、それは父のきびしい躾けであったと思いますと答えます。

というのは、私の生家は味噌、醤油の醸造ですから、蔵人は朝早くから仕込みをやっております。私は汽車で小諸から上田中学へ通学しておりましたが、朝の汽車に乗る前に、父は蔵人と一緒に働かせました。従って暗いうちから起きなければなりません。それ以来、私はずっとたいへんな早起きです。ですから、今も健康なのは私に早起きをさせてくれた父のお蔭だと思っております。

その厳格な父に私が画家になりたいと申しましたら父はお前を幇間、太鼓持ちにするつもりはないといわれました。絵というものは一部の金持ちに買ってもらわなければならないのだから、買ってもらうために、媚を売るのは幇間、太鼓持ちではないか。どうしてもというなら絵を米麦の資に換えなければ許すというのです。絵を売らない画家などないから、画家にはなるなということなのです。

しかしどうしても絵を画きたいので、私は父にこうお願いしました。絵は才能があっても認められるかどうか分りません。私は才能がないとしても、一所懸命、誠をつくして絵を画きたいのです。どうか一生食べさせて下さい。父は、そうか、お前がそこまでつきつめて考えているんなら、一生食べさせてやろう。誠心誠意努力して絵をかきなさい。こう言って父はゆるしてくれました。

文化勲章を頂いて、陛下にお目にかかったとき、陛下から、敬三の父上の久左衛門翁は富岡鉄斎と親しかったそうだが、どのような父であったかと、聞かれました。父は生涯、誠ということを追及した父だと思いますとお答えしました。陛下は、すると久左衛門翁は哲学か倫理学で誠を研究したのかと重ねてたずねられました。いいえ、父は日常の生活において、誠実に生きるということはどういうことかを追及し、実践したのでございますと申し上げました。

静かに、語りかけるように話される先輩のお話に、全員が深く感銘致しました。小山邦太郎先生は「いや、敬三君有難う。実は〈誠〉の一字を色紙に書いてみんなに差し上げようと思って持って来たがすべて敬三君に語って頂きました。敬三君、有難う」とおっしゃり、敬三先輩の手を握って、心からお礼をいわれました。感激的な情景に、一同涙のこみ上げてくるような心情になりました。

「誠、邦太郎、八十九歳」と書かれた色紙を今も宝物のように私は眺めております。

京浜急行電鉄株式会社

取締役副社長　芹沢守利（32期）

本社　東京都港区高輪2丁目20番20号
☎ 03―443―5111（大代表）

株式会社　市川商会

取締役社長　市川三男（32期）

東京都豊島区上池袋1―38―15
☎ 03―949―1157（代表）

社団法人　全国農林統計協会連合会
各県所在農林統計情報事務所

常務理事　斉藤義臣（41期）

〒150 東京都渋谷区渋谷2―17―2　☎ 03―407―8905

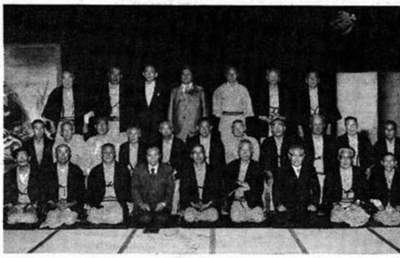
『農業日誌』昭和61年版　特価 1340円　送料 300円

内容―最新の農業技術、経営改善、生活改善の記事
農林漁業資金の借入方法、農業者年金制度
全国農協共済温泉保養施設一覧
毎日の経営記帳、現金現物収支記帳

卒業してから60周年
25期会 記念の集い

昨年磯部温泉に於いて二十五期クラス会を開催し三十名の出席あり、盛会の裡に散会したが、本年は上中卒業後六十周年を迎えるので、郷里上田に於て、有意義で且つ盛大な同期会を開催しよう、そしてその設営は万事地元世話人の諸氏に一任しようということであった。例によって地元の世話人代表荒井重雄君が中心となって井沢喜三、宮島武雄君を加え着々として其の準備に取りかかり、五月三十日を期して別所温泉花屋ホテルで開催する運びとなった。集る者三十名の予定中三名欠員で二十七名の集いとなった。

時あたかもNHK大型時代劇「真田太平記」のテレビドラマ続行中とて、地元上田市と駅は真田幸村の馬上勇士の銅像も完成、全市挙げて六文銭の旗靡き、上田への観光客も日増しに増大しつつあると嬉しい話題に充つる中、昌幸の次男源二郎（幸村）と「草の女」お江と結ばれたロマンただよう別所温泉「岩湯」と由緒ある花屋ホテルを選ばれた事は、地元幹事諸氏の粋な取り計らいに感激した次第。



卒業60周年記念に集まった25期生

三時に集会との案内に従い大部分のメンバーは、既に設営された部屋割に従い、各自の部屋に入ると同時に、渡された資料は各種の真田太平記に因んだ城下町上田観光案内図信州の鎌倉といわれた塩田平と別所温泉周辺の案内図および二十五期生全員の近況手記を渡され之等資料を読みつつ久方振りに出合った同期生との懐旧談に話しは尽きない。

一風呂浴びて各部屋で休養の後、宴会場に集合、先ず記念撮影の後、司会者の開会の辞に次ぎ、世話人代表として荒井重雄君の挨拶あり、今回は各自の自己紹介を省いて、久し振りに出席された諸氏の自己紹介にとどめ、最長老松山篤君の音頭によって乾杯をなし宴会に入る。

例年ならば丸山町の丸山重義君の名司会によるユーモアに富んだ懇談の場が持てる筈であったが、奥さんが病気で看病のため一歩も外へは出られぬ由で欠席。彼の近況記事によれば「教育勅語の〝夫婦相和し〟の真意が身にしみて妻の看病に感謝しつつ毎日を送っている」との報告は明治人間の真髄に触れ、思わず彼の心情に敬意を払った次第。

六十年前の超不況時代は戦後の高度成長時代後の二回に渡る石油ショックに見舞われ低成長時代を迎えた今日の世代に、極めて類似の環境にあった。戦前に於ける不況の克復は、満州事変に初まった日支事変大東亜戦争への突入となり、遂に大敗戦の体験をした吾々が、今日の低成長を如何にして乗り切るかは、今後の日本国民に課せられた重要課題であるが、今輪際戦争を回避しつつ、ハイテク時代を迎え、貿易摩擦に対処しつつ国際化時代に即応することこそ、吾等の使命ではなかろうか。

六十年前の上中卒業時百五十七名の同期生が、現存六九名の四四%となった。が、お互健康に留意して今後は毎年上田近辺の温泉地を選んで集まろう、その設営は地元に一任しようとの事で六十年度クラス会の幕を閉じた。

当日の出席者は左記の通り

荒井重雄、井沢喜三、荻原文雄、尾崎一雄、加藤順、田中忠太郎、中曽根文夫、宮島武雄、宮原秀雄、宮堀俊雄、松山篤、鈴木弘、別府基保、小山卓一郎、保坂富男、小平正義、近藤英雄、轟憲三、吉池良三、馬場長市、宮入博、鈴木孝、荻野喜次、三井忠直、高島兵庫、中曽根保雄、小山勝以上二十七名。

（井沢喜三、馬場長市合作）

運営基金募集に協力

因に今会期中に関東地区よりの出席者で臨時部会を開き関東同窓会の運営基金の募集運動に協力する。但し条件として関東在住一九名一同連名で募金に応じ、向う十年間無料にて機関紙「うえだ」を配布して貰うことを決議し、関東同窓会に申し入れることとした。帰京後神野会長の同意を得る、当日欠席者もこの趣旨に賛同し、夫々私宛送金され一括して神野会長宛送金を完了した事を茲に報告し擱筆する。（幹事馬場）

やあしばらく

母校に器機収納庫
52期 30周年記念に寄贈

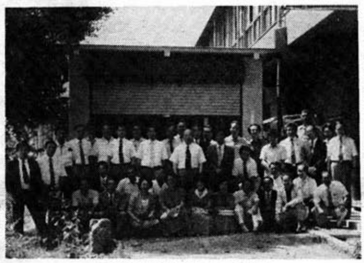
第五十二期生は、卒業三十周年を迎え、この記念すべき節目を意義あるものとするため、諸先輩の例に倣い母校のための記念事業を企画し、昨年十二月以来在郷の実行委員会委員長大沢知昭氏、事務局長山崎博太氏を中心に精力的な募金活動を展開、関東の同志も多数これに賛同し応募の結果、二百十余名の同期生並びに関係法人各位から総額二百六十数万円の募金を調達し所期の目標を十二分に達成しました。本紙上を借りて関東の五十二期生の諸氏に心からお礼申しあげる次第です。

この募金により母校構内に教育器機収納庫一棟を建築して、去る七月二十八日(日)午後一時から挙行された同窓会館での祝賀会の席で松本校長先生に引渡し式を行います。

なお、同祝賀会には関東から、池田（旧伊藤）松子、瀬川直佐、柳沢忠氏らもが参加しました。

参会者の中には、三十年振りの再会や母校訪問を果した者も少くなく、香青軒での二次会も殆んど全員がそのまま参加し旧交を暖め懐古談に話を咲かせました。

（52期　青柳　位紗男記）



新築の寄贈建物の前で……52期生

炎天の下に39名
38会「きばらし」に集う

昭和60年度の38会総会は終戦記念日の八月十五日、上田市内の「きばらし」で開かれた。今年の当番はA組で、八のクラスメートが続々とつめかけた。

今年の暑さは格別で、うだるような炎天の下、元気な諸君が顔をそろえた。画家の有賀温君は体調を崩して郷里に引きあげているが、不自由な体をおして、夫人付添いで出席してくれた。仲々できないことである。

今年出席した人のうちで、珍しい顔は、伊那市で人権擁護委員をしている下平（小見山）晃君と、はるばる大阪から出席した清水甚三君、富士ファイバーグラスの岩下運雄君などであった。

会はまず当番幹事の柳沢喜次郎君の司会で始められた。幹事長吉野光明君の開会のあいさつ、会長の宮崎盛登君の歓迎の言葉のあと、事務局をあずかる穂谷潔君から一年間の経過報告が行われてセレモニーは終った。

ついで湯河原から駆けつけた塚田裕三君の乾杯の音頭で宴の幕は切って落された。

一杯はいると席は俄然賑やかになる。しかめつらしい顔をしていたのも、いつの間にか昔の面顔になるから不思議である。

話は次から次へと弾んで行く。軍事教練で新鹿沢に宿営中の事件。水筒に酒を詰めて行って酒盛をしたことが露見して大目玉をくった話など、悪童時代の話の種は尽きることはない。

還暦を過ぎた連中が、童顔に戻っての話し合いに、心と心のふれあった友情がまた一入深まった思いであった。いつまでも語りあっていたいのであるが、時は容赦なく過ぎて行く。名残りを惜しみながらの散会とあいなった。来年はB組の当番である。また元気で会おう。

一六会新鹿沢で例会

上田高校一六会（四十一期生）の定例会は六月二十二日新鹿沢温泉で開かれた。

ある時は意気揚々と、またある時は悄然と出入した懐しき校門を去って、既に43年が過ぎ、この間戦争にも倒れず、病気にもめげず、還暦を迎えた一六会の皆様に先ず祝福とお慶びを申上げます。猶志半ばにして逝去された会員諸兄の御冥福を心よりお祈り致します。

さて今回は全員に通知をしなかったにも拘らず、定例の一六会としては最高に近い御参加の連絡を賜り、また欠席の皆様からも近年になく多くの近況を知らせて頂いた事を厚く御礼申上げます。

今年から上田の例会は春に、東京での会は秋にと決まり、恒例の正月二日の会は有志参加で開催する事となりましたが、我々の年齢を考えると、一回でも多く会合を持ち、青春を語る事は長生きの一条件と思います。次回も今回にも増して多数の会員が元気な姿で御参会下さるよう希望致します。（出席者名簿と写真は一面広告中に）

（幹事D組金井　彰　舟見甲子郎記）

一六会新鹿沢に集ふ七句　久保田　昇

消えやらぬ　面影　梅雨の湖想ふ

梅雨の夜の　旧情温む　出湯かな

涯しなき　想いもちつつ　梅雨の山

摘み合いて　昔語りの　夏わらび

湯煙りの　彼方　六月ゆく日かな

旅の宿　人恋ふ郭公　なきにけり

老教師　遍路の如き　梅雨の宿

青山会館でも 寮歌の歌声

〝千曲の流れ水ゆるし〟幾度か歌ったことかこの寮歌。歌声は暮れ行く青山の地にこだまする。その時の感動がいまも胸につよく残っている。

去る十月十二日（土）に恒例の一六会を東京青山会館で開く。事前には十三名の世話人一同による綿密な企画運営がなされている。

五時を過ぎるころには続々と会場に笑顔を見せる。毎年続けられているのですぐ回想に花が咲く。古城の門を去り四十三星霜と歳月が流れている。みな還暦を迎えている。

ともかく懐かしさでいっぱいである。本年もいろいろと都合をつけて駆け付けてくれた同期生は本当に有難いものである。

六時開会。例年のよう在郷者代表の挨拶、記念撮影、乾杯と続く。やがて待望の歓談に移る。その折、いま上田市立図書館に勤めている武井宏雄君より卒業当時の「報国団誌」の披露があり当時の世相を想起することができた。

常に想う。青春とは人生のある期間を言うのではなく心の様相を言うのではないだろうか。いつまでも「若さ」と「情熱」と「夢」を持ち続けることである。少年時代にいだいたあの青雲の志を大切にしてほしい。名残りは尽きない。全員肩を組み青春の歌を高らかに歌う。再会を約し九時閉会する。（41期　生島信夫記）

出席者氏名次のとおり。

飯塚哲夫、生島信夫、川尻悦三、甲田睿、小林亮、清水栄一、正村吉徳、白鳥武、高橋一行、高森淳、武井宏雄、竹内義夫、田子檀、田中稔治、中沢全一、長井英一、野元成一、古松彰、保刈徳彦、松尾介石、宮坂和好、宮下俊夫、宮本金三、柳沢富雄、山田富夫、山本政太郎、母袋信吾、和田公平

50万円集めよう
三六会で決議

関東同窓会の運営基金募集のための三六会は八月二十二日、高田馬場の割烹「幸村」で開く。会は清水谷会長を中心にして進められ、まず当日の出席者全員が一万円ずつ拠出してくれることに決定。また在京同窓生は二十七名であるが、協力して五十万円は集めようという決議が行われた。出席者次のとおり。

松井智明、伊藤修寿郎、斉藤義久、北村孝夫、小林正毅、坂口政義、清水谷孝尚、神野勝男、田村和義、田中六郎、武藤久男、山本五助

祝 会報第34号 発刊

第41期生集会
60・6・12 青山会館

白鳥　武　正村　吉徳
高森　淳　武井　宏雄
田中　稔治　竹内　義夫
生島　信夫　田子　檀
川尻　悦三　中沢　全一
小林　亮　長井　英一
清水　栄一　松尾　介石
甲田　睿　宮本　金三
高橋　一行　山本政太郎
保刈　徳彦　和田　公平
宮下　俊夫　母袋　信吾
古松　彰　宮坂　和好
飯塚　哲夫　山田　富夫
野元　成一　柳沢　富雄

医療法人　日新堂
日新堂病院
院長　宮坂　裕（41期）
上田市中央3−14−20
☎ 0268−22−0558代

内科小児科医
金井　彰（41期）
上田市国分765

外科医
甲田英久（41期）
上田市中央1−6−24

内科小児科医
宮坂　啓（41期）
上田市常田2−5−3

同期会の集い

磯部で昭六会総会
来年は田沢温泉で決行

第十二回の昭六会（30期）定期総会は初夏の七月五日参加者二十九名で群馬の磯部温泉で開催した。母校の門を出た時は一七七名だったのに生存者は九十七名、その約三分の一の出席で例年通りだった。不参加者は何れも体の不調を伝えるものばかり。スポーツの選手だったものはほとんど出席した。

定時の午後三時ホテルの会議室に集り、原幹事の司会により山岸幹事の開会挨拶、昔の応援団長曲尾幹事指揮の校歌合唱を厳粛におこなう。本年度総会の代表幹事峯村文人君の挨拶につづいて昭六会会長永井大二君の経過報告も順調にすすみ、物故会員の黙祷のあと昨年他界したみすず書房の店主松井巻之助君の追悼の言葉を文理大同期の峯村文博から、また運輸省海難審判庁長官で秋の叙勲で勲二等に叙せられた柳沢厚君の追悼は親友だった原幹事からおくられた。

舌切雀のお宿ホテル磯部ガーデンの昭六会

出席会員全員の個人意見の発表は一人三分ずつおこなわれ、特に桑沢君の宗教と戦争・政治には宗教家らしい意見で感銘を受けた。また市原君のマスコミ支配の現社会を憂えた意見も感著をおぼえさせた。

工藤君のゴルフ談義、また塚田君の禁煙運動に対する情熱には頭の下るものがあった。

定刻もきたので原幹事から関東同窓会の活躍状態の説明あり募金運動に協力方の依頼をした。最後に地元の前橋女子短大の教授をしている針塚正樹君の閉会の辞で総会を終る。全員平服のまま玄関にて記念撮影を完了して入浴、ついで懇親会となる。

久し振りに出席した全国町村会会長宮原栄吉君の乾杯により宴会となる。上中時代互に席次を争った同志も昔話しに花をそえ磯部芸者を相手に痛飲する。最後に関西の宮尾君の指揮による凱歌合唱で楽しい宴を終わる。

幹事の用意した二次会場にもほとんどの者が集り歌とおどりで生きている幸を感じた。翌朝も酒が出て来年度代表幹事に塚田電機社長の塚田君に会場を宮原栄吉君の田沢温泉たまりやで決行することとなった。

会食中こんな楽しい会は年に一度でなく二回やってくれの案が出たが幹事一任で散会した。終わりにのぞみ現在好況の永井プラスチック会社社長永井大二君から多大な寄付並びに若松屋社長の工藤君から銘酒を寄贈され深甚な謝意を表する次第である。

（30期　原　相模記）

54期の集い

54期は来年卒業30周年になるので、いまからその勢いを高めようというわけで、六月九日母校本部の同窓大会のあと、当日記念講演を行った柳沢修君を囲み、竹内先生ともども以下の諸君が「笹屋」に集まって気勢をあげた。

岡崎光雄、岡田隆夫、小崎茂長谷川浩通、甘利隆弘、海瀬秀夫、小山盛夫、佐藤武、岩永浩司、富山剛、真道茂、五十嵐隆暁、小市則夫、渡辺正六川武郎、山浦輝信、中村至神林努、塩入文夫、佐藤圭司藤村延魚、近藤正司、寺島重毗、塚田正己、宮下博一、金子忠身、長谷川濃、宮崎正三宮入修平、武井澄夫、春日勇次郎、金井洋一、小林連司、橋詰清降、小宮山嘉一、清水道夫（54期　小市　則夫記）

NHKで四十三期会
十亀先生ご夫妻迎え

九月十四日（土）四十三回生同窓会が、十亀夫生ご夫妻をお迎えし、NHK放送センターで開催された。この会場設営はNHKに勤めている同期の水野孝之君のお骨折りにより実現したものである。

当日は十亀先生ご夫妻に同期生の集うもの上田からの来会者を含め二十五名、十亀先生の愛媛大学時代の教え子の才媛お二人も来会され甚だ盛会であった。

幹事開会の辞につづいてドラマ「真田太平記」の榎本一生ディレクターから小一時間にわたり真田太平記制作にまつわる苦心談、耳よりな裏話等のご披露があり〝その後スタジオ見学を行った。広いスタジオに設けられた京都の町並で演じられたドラマ撮影をじかにみて皆興味深々であった。見学の帰りに化粧部屋を覗いて「おこう」さんをつれ出し彼女を真中にして記念撮影をした。十亀先生から特にこの写真は忘れずに送ってくれとのお言葉があったが全員同じ気持だろうと思われる。

その後センターの一室に特に設けられた宴会場に戻り乾杯、懇親会に移った。まず、当日特にご出席下さった関東同窓会の副会長さんからご祝詞、また基金募集についてご説明と協力のご依頼があった。

つづいて十亀先生のご挨拶を頂いたが、先生のお話しは昭和六年上田に着任以来、戦中戦後にわたる先生の東信の史学会とのかかわりについての興味深いお話しであった。〝宴酣の頃、山極尚一君から書籍「真田一族の史実とロマン」東信史学会編の説明があり、真田ブームの折柄売行は上々であった。

語りはつきず定刻を三十分延長して、校歌を斉唱して散会した。次回は会場を信州に移して行うべく当日出席された在郷の諸兄にお骨折を依頼した。出席者名次の通り。

青木袈裟彦、池田良一、上野敏雄、梅田実、岡本章、久保深、小林勇、小林拓也、小山栄治、桜井利雄、佐々木三夫、清水哲夫、田玉重陽、土屋功、土屋啓、平林眞、松園裕、水野孝之、宮入広司、宮島建久、西沢卓蔵、柳沢寛三、山極尚一、山崎健、吉村文和

（43期　松園　裕記）

十亀先生を囲んで＝NHK放送センターで

浅草で東京柔和会

急に秋らしくなった9月26日、東京柔和会が浅草国際劇場跡地に新築なった浅草ビューホテル26階の「ひばり」の間で開催された。

当日の出席者は東京関係は坂田隆雄会長、井村薫、坂田敏雄、田原英勝御夫妻、原相模、金井忠義、岡清助、小林郷司、柳沢広、堀田正直、小市則夫、矢島五郎名誉会員の諸氏

本部から山寺豊一、石田守清水周の諸氏来賓として神野同窓会長、清水谷孝尚氏。

まず坂田会長から挨拶のあと、上田高校現役柔道部員の育成について話があり、柔道基金を募集するよう提案があり執行部一任となった。また柔和会は少くとも年二回は開催することを決めた。

ついで会員田原英勝氏の栄誉ある八段位昇段の祝賀会を御夫妻おそろいの中でとり行なわれた。

今回は浅草寺執事清水谷孝（36期基金特別委員会委員長）の御案内で、めったに見られない浅草寺内伝法院の小堀遠州が築造したと伝えられる庭園を拝観させていただいた。

（小市　則夫記）

故安間清先生を偲ぶ

先日上田の和田公平君より安間先生が逝去されたとの連絡を受け、その折り当時を回顧してはとの依頼があった。

去る昭和十二年四月、大いなる希望と少しばかりの不安を交錯させながら古城の門に入った。A組には五十名の俊秀な面々がおり、担任は安間清先生であった。謹厳そのものの風貌が目に写る。勉学よりも態度、規律など人間形成全般を重視された。私たちにとって「心のふるさと」上中での最初の師といえよう。

専門は国語でその授業は懇切丁寧であって、とくに授業の合間に人生談義が多かった。その一つ一つが印象に残る。また、個々の性格等を的確に見極められ、それぞれに手をかけ目をかけ、声をかけられた。まさに激励と称賛と叱責のバランスをとられたのである。日ごろからの先生の薫陶により上中健児としての自覚が一層深められていった。

多感な一、二年生時代における先生の感化力はまことに偉大であった。常に考える。生徒と教師のつながりは生徒が教師の姿を把握した瞬間、永却に消えない。平生より人間理解に努めよりよい変貌を遂げるよう受容と暖かい気持ちで接してくださった安間先生はさすがに立派だった。

人生は出会いであり縁である。現在A組諸兄は全員還暦を迎えている。そして各分野で人のため世のためもてる力を充分に発揮されたと聞く。これは道標を示してくださった先生のおかげであると感謝し、心よりご冥福を祈る。

（41期　生島　信夫記）

都立大学教授
発生講座担当
柳沢富雄（41期）
都立大学教授
（自宅）
中田谷区弦巻1－25－16
ハイム林 201
☎03－439－1668

日本人蔘販売
農業協同組合連合会
常任顧問　甲田　睿（41期）
千代田区神田淡路町2－29
☎ 03－251－4611

株式会社
電々共栄会
取締役社長　成沢　淳（41期）
新宿区新宿4－2－23
☎ 03－356－7001

東灘トーメンサイロ㈱
専務取締役
長井英一（41期）
神戸市東灘区住吉浜町19－2
☎ 078－811－0911
（自宅）
横浜市中区元町1－75
☎ 045－641－0277

同期生諸兄のご協力を謝す
A組　白鳥武　高森淳　田中稔治
B組　生島信夫　川尻悦三　甲田睿
C組　斉藤好一　高橋一行　保刈徳彦　宮下俊夫
D組　飯塚哲夫　成沢淳　古松彰
41期生関東在住世話人会

石油資源開発株式会社
監査役　飯塚　哲夫（41期）
〒107 東京都港区赤坂2－17－22
赤坂ツインタワー東館
☎ 03－584－0511 代
（自宅）〒201
狛江市中和泉3－25－13
☎ 03－480－9928

大井清水外科病院
外科・胃腸科・脳外科
整形外科
（埼玉県警察嘱託）
院長　清水　栄一（41期）
〒354
埼玉県入間郡大井町亀久保1243
☎ 0492－62－3020

真田氏史跡見聞記

菅平で第23回三三会

橋本利政

連日続いた猛暑、熱帯夜と夜も満足にねむれぬ九月初旬、信州菅平にて同窓会が開催された。暑い東京を脱出する絶好のチャンスとばかり、さぞ涼しかろうと期待して、八日の朝「あさま9号」に乗り込む。碓氷の峠を越えて、暫らく振りに見た快晴の浅間山の雄姿、襞の一筋ひとすじまでくっきり見せている。こんなにも美しい山であったかと改めて見直す。何年振りかで見る東信の山々に、見とれて過ぐる間もなく列車は上田駅に停まる。ショルダー一つの軽装で下車、とたんに「おや暑い」と思わず口走るほどに、信州もやっぱり暑かった。

松尾町の坂は長い。何十年振りかで歩く町はすっかり近代化されて昔の名残りは見あたらない。やがて左折して堀に突き当ると右手に、黒々とした校門がみえてきた。これだ、変らぬものは「これだった」と先ほど来、さがし求めてきたものに、やっと会え安堵感と感慨、そして卒業以来50年振りに再会した校門、しばらく立ち止まって望見「県立上田高等学校」の銘札の文字も白く、高々と掲げられていた。おおわが母校、感慨一入であった。同窓会館の待合室で涼をとりながら、友と久方振りの再会を喜びあう。

幹事の二時出発の声にはずみをつけて、二台のマイクロバスに分乗、真田史跡めぐりスタート、バスは神科道を真田町へ。真田町真田資料館に到着、前館長の横沢　理君（博物横沢先生の長男）の案内で、真田氏ゆかりの数多くの資料を拝観、同君の至れりつくせりの説明は誠に堂に入ったもので、大いに役立ち、楽しかった。

さて、一番手信綱寺へ。同寺は、曹洞宗永平寺を総持寺として大柏寺と号す。真田信綱公夫妻（幸村の伯父、昌幸の長兄）の墓所寺である。信綱が天正三年春、長篠の戦で討死、家臣がその首級を陣羽織に包み、もち帰り黒門入口右の桜樹の根元に葬ったといわれている。

境内には本堂、庫裡の他多くの建物あり、享保二年建立以来焼火にあわず、昔日のまま存置され、真田家の由来を偲ぶに多とするものがある。古文書、血染の陣羽織等が陳列されている。堂宇の奥庭の樹々の見事さは、例えようもなき立派なもので一見に値する。

納所の見送りの声を後にして、真田氏記念公園へ、国道四四号線バイパス沿いにある小公園で、池波正太郎の「真田太平記」に啓蒙されて町が最近になって「真田の里」ふるさとのシンボルとして、造園されたもの。真田氏三代幸隆公、昌幸公、幸村公のレリーフと三公をたたえた詩碑が建られている。次に車は昌幸公の墓所長谷寺へ、本堂は焼火し近年にコンクリート造の堂宇が建設された。本来は天文十六年に、幸隆が開基となり、晃運和尚が開山した寺で、真田家の菩提寺としゆかり深い寺である。入口の山門は石造アーチ型をして、しだれ桜を配するという、日本の寺には珍らしい、造形美をなしている。本営の裏手、深い木立の中に苔むして、ひっそりと幸隆公夫妻、昌幸公の墓が、手向ける花もなくたっていた。手を合せながら、真田ブームの現在にしては、いささかわびしい気がした。

最後は真田氏一族が、本領を発揮し、その要塞、眺望を誇った真田氏本城跡に立ち横沢氏の説明に耳をかたむける。戦国の世の真田武士の面目躍如たるもの彷彿として、眼前に広がる思いがした。さ程に高き峰（八九〇米）とは思えぬが、眼下左前方に砥石米山城、右前方に横尾城、真向いに根小屋城、さらに右奥、角間の出合に松尾城と、要所要所に城塞（出城）を築き本城の固めとした。また本城の麓には居館をかまえ、一旦緩急あらば直ちに本城に至れる至近の距離である。ここに立ちて四囲を眺め、かの「真田太平記」に登場する源二郎や佐助、角兵衛そしてお江と、真田武士や草のものの活躍が、偲ばれる。往時の感慨を一入深く心残して城跡を去る。

ここで史跡めぐりは打切り、今夜の宿菅平ホテル（館主33回北村春雄君）に向う。午後四時すぎホテル到着、ホテル前で記念写真、館主のご好意で、喫茶店を借切り総会に移る。在郷幹事、在京幹事の報告あり、約30分で異議なし。三々五々、割当の部屋に入る。今年はクラス別の部屋割で大いにくつろぎ、上中時代に若返り、話に花が咲き尽るを知らない。

宴会は大食堂で、テーブル・スキヤキパーティー、館主夫妻のご好意か、食卓はわれら古稀のやからには、盛沢山でやや食傷ぎみとはぜいたくか、大いなる山海の珍味はテーブルの花と終りぬ。酒食足りて、談笑、放歌して隣席の若者共を悩ますことしきり。しばしの騒音も解散するや、年は争そえない。部屋に引きとるや否や、キューパタン……おやすみ。

明けて九日、早朝から雲一つなき快晴、高原の冷気はどこへやら朝日が照りつける。青空の中に四阿山、根子岳、鳥帽子の山々が見事に姿を見せてくれる。八時朝食をすませ、出発準備完了、北村館主のご案内で、菅平高原の各地の案内をしていただく。菅平高原のすべてがわかる「菅平高原自然館」、自然遊歩道をはじめ、ダボス方面の新開地からのアルプスの景観のすばらしさ等々、夏ならではの高原の雰囲気に存分にひたり、菅平を後にする。

上田駅到着午前十一時、再会を約して解散、また来年もあいましょう、最後に在郷幹事の土屋、丸山、宮尾君のご苦労に対し深甚の謝意を表して稿をおわる。

追記　寄せ書きは、同僚荒井和夫君の病床に贈るもの、なお同君は順天堂病院に入院中で、病状も極めて重い状態である。同君の快復を祈って寄せ書をしたものである。

出席者氏名　36名〇在京者

A組　金沢継人、北沢泉、北村春雄、〇佐藤次男、〇竹内重、土屋敦博、〇浜村恒雄、吉田竜二

B組　工藤康雄、道　透、中曽根武彦、橋本千秋、横沢理

C組　石川典雄、太田速雄、小松周吉、田中淳夫、野田俊栄、松尾忠直、丸山一也

D組　近藤光男、相良文明、〇鈴木真二、武井一寿、〇土屋三三男、〇保科巌、宮尾利雄

E組　〇川崎喜久治、白木正典、春原桂次郎、中村辰男、〇橋本利政、〇弘世弘信、矢島周司、柳沢巽、柳沢理一郎

せんせい

55期　小池玲子

上田高校は良い学校

私はいま、ある私的教育団体に属して、幼児から高校生までを対象に自宅で算数・数学の教室を開いています。もう十年、国語も四年前から加えました。去る五月からは英語もはじめました。上田高校時代は、数学が最も不得手だったことを考えると、皮肉なものです。

この仕事をしておりますと折りにふれて思い出すのが高校の時の先生方です。ことに数学の岩下先生、国語の矢島先生、英語の林先生の印象は今でも強く胸に焼きついています。

当時は戦後の混乱期（編集者注＝55期は昭和32年3月の卒業）をようやく脱したばかりで、学力の水準も低く、現在では中三で習う因数分解にも高校へ入ってはじめてお目にかかりました。

岩下先生がニコニコといかにも楽しそうにつぎつぎに問題を解いていかれるのを呆然と眺めながら、因数とはいったい何のことやら、全くチンプンカンプンで、これはたいへんなことになったと思ったものです。

でも代数（当時の解析Ⅰ）は、二学期の期末試験の無残な点に発奮して、冬休みに問題集一冊を完全に仕上げることで克服しましたが、二年の時の幾何には参りました。

やはり岩下先生でしたが、先生のニコニコ顔をなるべく見ないようにして、指名されても下をむいてお次へ譲り、静かに静かに一年をやり過ごしたものです。

国語は矢島先生の「奥の細道」の講義と、俳人中村草田男への傾倒ぶりが非常に印象に残っています。いつも楽しみな時間でした。

英語はクラス担任が林大太郎先生だったこともあって、副読本に「リップ・バン・ウインクル」や「偉大な石の顔」「ワーズワースの詩などを面白く読んだこと、質問のために図書室の隣りの先生のお部屋に伺うと、分厚い原書から例文を引いて解説して下さったことなど、忘れられないことばかりです。林先生からつい先だってもエッセイ集をお送りいただきました。いつまでもお元気でと祈っております。

幾何の授業のとき、いつも代りに前に出て解いてくれた人が、いますぐ下の妹の夫であるAさんではなかったかとひそかに考えているのですが確かめてはありません。一番下の妹の夫も、一期下のKさんですので、このお二人に私はよく

「上田高校ってほんとうに良い学校だったと思わない？　自分の子が高校生になってみると、余計そう思うわ」

というのですが、彼等がこれに賛同しているか否か、ややあいまいなのが不満です。でも息子一人を都立高へ、二人を六年一貫制の都内の私立高（私の上下の期の方お二人がそこの先生をしてらっしゃいます）に通わせてみて、出来の悪い息子たちのせいもあるのでしょうが、なおのこと上田高校は良い学校だったな痛感しています。

子育ての手がある程度離れてから始めたいまの仕事ですが、地域の多くの子供たちとつき合う楽しさに魅かれて十年続いてきたことをふりかえり、数学単科から三教科に手をひろげ、今後もさらにできる限り続けて行きたいと願うとき、私のところに来た子供たちは皆に、将来実になる確実な学力をつけさせなくてはならないと思います。同時に、子供たちの心の中に良い記憶を残せる教師、指導者像とはいったい何だろうと、つくづく考えざるを得ません。

上田高校で出会った先生方は、情熱を持っておられました。生意気盛りの私たちを引きつける実力を持っておられたと思います。私も私なりに教室の子供たちと心を触れ合わすつき合いをし、指導をすることで、記憶に残る「良い先生」になれればいいなあと考えています。

安楽寺住職

若林順天（32期）

上田市別所温泉1600
☎ 0268－38－2062

全国唯一の国宝八角三重塔のある信州で最も古い禅宗の寺で、最近真田太平記にも出ている別所の安楽寺です。（高見沢）

YAJIMA

2F
メガネのオプティック・ヤジマ
—メガネ・補聴器・光学品—
1F
宝石／時計／貴金属のヤジマ

社長　矢島卯太郎（32期）

上田市中央2－8－8〈海野町通り〉
☎ 0268－22－3111㈹

広島原爆の被爆体験者として
核兵器の廃絶を訴える

清水　信（32期）

船橋市薬円台3－16－8
☎ 0474－62－0150

祈　諸兄御健康

清水憲之助（32期）

【電子機器製造】
第一工業株式会社　代表

本社　上田市上塩尻78
☎ 0268－22－1926
房山工場　0268－27－8191
自宅　0268－22－1926

林　重夫（32期）

東京都新宿区西落合2－13－19
東丸マンション 301号
☎ 03－951－7972

医療法人（財）公仁会
金沢病院
理事長　金沢光男（41期）

柏崎市駅前2－1－25
☎ 0275－23－6254

福寿司

渋谷区宇田川町35－7
☎ 461－8261
☎ 473－0239広尾店

32期の中村礼三です。ここは32期会と球友会の定席で、ご主人の下田さんは古い友人で本当にイイオヤジさん。いつも無理をお願いしています。最近後輩の諸兄からしばしば尋ねられますので25名位迄のご宴会、ご商談、クラス会等には会席の穴場だと信じておりますのであえて紹介いたしました。”せいぜいご利用下されば私の面目もたつというものです。ヨロシク。

松尾球友会

いつも乍らの御支援有難うございます。
今後とも御援助をお願いします。

中村礼三（32期）

東京都杉並区成田西2－22－21
☎ 03－398－6045

別所温泉

玉屋旅館

山極真平（32期）

上田市別所温泉227
☎ 0268－38－3015

関東同窓会　会員全名簿

60年10月現在の上田高校関東同窓会全会員の氏名は次の通りである。昨年春の総会で会費納入者のみを以って会員とするように会則を改め、会が再発足した折、会報第31号に新会則による会員全名簿を掲載した。総員一、二二二人であった。

今号の会員数は一、三七九人である。一年余を経て一六七人の増加となっている。

会再編に際し、最も心配されたのは、会費納入と会員資格を直援び結つけ、会員を限定したことにより、会員が逓減するかも知れないということであった。幸いこれまでのところ、これは杞憂に終わっている。会員諸兄の組織活動のおかげで誠に心強い。次回の全名簿掲載は明後年春季37号を予定している。さらに会員の増加を見るよう祈る。

さて名簿だが、例によって各個人の年会費納入年度を数字で加えた。柳田副会長、長藤会計長の慎重、綿密な作業である。

数字が60なら昭和60年度分までが納入ずみを示す。57、58の会員は猶予期間の関係で、60年度分を早く納めないと資格を失うので特に注意されたい。それぞれ自分の名と数字を確かめ、年会費納入にご協力下さい。

【26期】12人　工藤一三60　小泉寿64　後藤富平60　滝沢伝61　塚田通明58　馬場武60　【27期】10人　小林忠人59　滝沢昇60　樋口達雄58　山辺三男62　依田和夫59　【28期】12人　岡田重一65　坂井実雄63　竜野和夫60　松野輝彦60　宮原秀人60　小宮山幸一郎63　【29期】11人　岩下美千穂68　笠原文雄59　滝沢盤58　町田尚久61　森四郎58

上田政男61　倉島直善58　小山正徳60　坂田隆雄60　田口喜一郎61　西沢佶65　春日省吾63　清水俊一60　手塚幸雄59　三谷毅59　柳沢泉61　市川為雄58　小山陽太郎61　滝沢幸司60　田中五郎61　三井重雄60　吉田為雄61　井村薫60　大塚毅59　鎌原義則62　別所洋昭65　武藤矩靖60　六川善一60

【30期】27人　赤松遥62　池内芳茂60　沓掛友彦61　小林政家62　塩沢丑太郎62　鷹野忠一60　田中有一60　南波武英60　原相模61　曲尾清62　宮不武平60　柳沢厚59　山岸一一61　【31期】22人　赤沼直人60　宇野重徳60　小宮山庄三68　後藤長英58　清水繁春61　土屋学68　原理61　宮入秀夫61　矢島五郎65　柳達雄65　米山正次59

朝倉保平61　荒井正善60　石塚一重58　熊谷進司60　斉藤清60　関啓一58　田口真六60　成沢省三61　西沢秀暁65　針塚正樹62　峯村文人61　柳沢胖66　柳田茂雄60　渡辺嘉博60　赤沼進吾61　安国院実61　加藤三郎64　小山一平64　沢田光雄62　玉井康彦61　寺田直60　松島三男63　宮坂三吉64　柳沢次郎60　山崎渉70

【32期】30人　安藤敏夫60　石井満明70　岩田光弘58　荻野左中60　笹川徹60　芹沢守利60　高見沢澄平61　外山正博61　中村礼三62　平尾陸郎65　増田敏雄58　水野利男63　村上寅雄61　山岸正喜60　渡辺綱男58　【33期】25人　朝日仁一61　飯塚茂男58　川崎喜久治58　小松辰雄59　佐藤三義67　椎塚三夫58　滝沢昌一61　土屋利一59　中沢亮太60

浅井敦60　池島雄三61　市川三男60　大石裕丈58　児玉浩60　清水信61　高橋亮吉60　遠山忠雄60　永井義一61　林重夫60　福島軍治60　水科正58　宮崎光邦60　柳沢邦人60　吉田正58　朝日征60　荒井和夫60　加藤鉄司60　北沢茂61　佐藤次男58　佐藤佳良60　鈴木真二61　竹内重61　土屋三男66　西沢一恵60

橋本利正61　弘世弘信60　宮沢卓司60　【34期】24人　金井忠義61　工藤恭治60　小林重昌60　島川吉兵衛59　清水好夫62　鷹野富士雄61　高橋五六62　土屋信夫64　松井正直60　宮沢美智雄60　柳沢太郎60　若林彦六59　【35期】24人　石倉謙一60　大井卓雄70　小宮山隆三60　佐藤義仲60　渋沢元則60　白井速雄62　城田賢61　竹下栄昌59　掘内功58　箕輪孝尚58　柳沢義男60　渡辺達也59　【36期】28人　岡木博美61　尾崎毅60　掛川重義58　工藤茂房60　小松義衛63　清水谷孝尚62　高遠弥六61　田村和義65　田中良夫60　韮沢嘉雄60　松井智明60　松野正60　武捨久雄60　村山一郎61　【37期】21人　新井邦夫62　内田重喜60　風見和泉60　清水志郎60　関邦雄58　田中藤平60

浜村恒雄62　保科巌60　吉田竜二58　大塚俊夫59　神田精夫60　工藤善正60　桜井直人60　島津俊治62　砂田昌寿61　高木勝繁60　高見沢正60　林克巳60　真峯秀雄60　宮下重一61　柳沢操60　石井暢62　宇野智60　北村武敏59　神津勝時60　塩入重雄62　清水彰60　白鳥繁61　関輝雄62　掘内啓爾60　滝沢正64　宮坂四雄58　山崎行則59　伊藤松寿郎66　荻原信好61　皆藤義久61　北村季夫61　小林正登62　小宮山鉄雄59　神野勝男60　滝沢克巳65　田中鑑生60　田中六郎65　深井安見夫60　松島久61　丸山英人59　山本五助61　浅野恭平61　岩田茂樹62　岡清助61　坂本史郎60　下村達男59　田中武人61　永田末吉64

根津勇60　林孫一郎58　古畑徳宝60　柳田誠60　【38期】23人　荒木広之60　牛木睦富59　小林直樹60　清水信吾60　白井広重60　滝沢得一郎61　塚田祐三60　水野亀雄59　宮原敦60　宮原泰助58　矢島仁58　【39期】16人　出浦新一58　小木曽学62　志津田瑞穂58　竹内幸彦61　中曽根芳正60　西沢和臣70　松尾勝人60　横関嘉伸60　【40期】29人　石木林66　井本公二62　上野豊重61　荻原愈58　小林博62　小山信平60　児玉安彦61　佐藤富二夫58　田玉清次59　丸山英一70　森山博司64　柳沢晴夫68　古池一郎58　吉田光輝60　【41期】28人　飯塚哲夫60　生島信夫61　川尻悦三61　斉藤好一62　清水栄一62　白鳥武61　高森淳60　田口善孝60　土屋勉61　成沢淳63　古松彰60　保刈徳彦61　宮本金三59　依田弘夫59　【42期】34人　浅野敏正60　池内公59　今井光男61　大滝善夫60　折田義雄61　木内俊一59　小林孝雄59　佐藤成男62　高野佐大夫60　滝沢茂雄60　遠山了二66

八田秀64　原田安雄58　掘内敏雄60　横田地弘61　阿曽英二61　有賀温60　小林三郎62　清水幾男61　清水則夫61　高木弘行66　田中康雄65　戸谷禧良58　峯村秀男60　森秀一郎59　矢島勇雄60　由比虎史61　阿部博59　大塚唯男61　菊地博60　渋沢芳三63　田中孝彦61　長藤勝61　橋詰享61　矢島良衛59　池田正治62　市川正夫58　今井甲子雄60　宇野公60　小林郷司60　小林政治60　古金昭夫62　佐藤鱗也61　清水恭平60　長谷川和音58　水野洋三62　矢島信一60　山本周三65　吉田節生60　渡辺久雄61　飯島文作60　伊田幸雄60　金沢光男61　甲田脩62　斉藤義臣62　正村吉徳61　高橋一行58　田中甲子男59　田中稔治62　中沢全一59　藤沢正吉64　古谷達彦61　宮下俊夫62　横沢俊雄58　青山幸夫60　飯島叔男60　石井準之助60　岩下実60　大塚芳直62　金子保夫60　栗田裕夫59　小山成安60　摺田巌59　高橋祇市62　田村滋雅60　永井重弘60

橋本英典60　宮坂民樹60　村山篤61　横田種雄61　横山十四男64　六川英夫60　【43期】24人　池田良一60　梅田実60　小林拓也59　小林美彦61　小山久之61　清水哲夫63　土屋功60　中沢信61　古畑時生59　松園裕62　宮島建久60　西沢卓蔵67　【44—5】30人　内海辰三60　荻野理宏59　北沢守60　甲田悌三60　児玉喜年63　小山厚三郎62　佐藤藤雄60　清水茂行58　生島和幸63　手塚敬一60　中沢志朗60　中田倭雄59　深井清久60　柳沢広60　宮下忠二59　【44—4】27人　市村進60　小林一雄58　児玉志郎61　志摩亮夫58　高橋昭平60　滝沢昌一59　土肥幹夫59　成田澄男60　星野賢造61　松山史郎59　峯村昭三63　矢幡隆60　柳沢啓一60　【45期】7人　高藤基65　別府茂58　森茂63　【46期】28人　有賀治61　出浦仁61　臼田今朝雄60　春日敦美60　金子寿夫60　甲田礼治63　塩沢昭一61　関光司58　筑土秀玄60　寺沢浩58　中島正夫60　三井周61　宮沢寿65

丸山仁志59　宮本武61　柳原寿一60　横山誠之助62　依田和俊59　飯島久生61　上野敏雄61　金子太吉63　小林朝衛62　小山栄治60　佐々木三夫63　清水哲夫60　寺尾康62　平林直60　保刈大治61　水野孝之59　向山光男60　石井克巳60　大塚寿66　岡野森太郎60　城戸道夫61　古平照男59　小林義徳61　斉藤辰二59　篠原保60　清水正司60　武井国憲60　永井巌61　中島和夫61　原島佐吉60　牧内繁基60　宮後円都59　市川渡60　荻原隆60　小山久治60　坂田義明60　高木通安58　竹内秀彦64　所昭三61　中村強58　西巻浩60　掘内茂雄60　南沢次雄59　宮入正一60　柳沢清史60　山極栄司61　児玉和己59　富岡輝一59　宮沢栄二60　山辺力60　有坂元秀60　飯島俊一58　伊藤茂久60　太田達郎60　神林常視66　工藤忠房60　伊藤信60　清水巻郎64　滝沢敦美59　手塚享60　常田英世60　松尾昭59　宮坂修一60　横田亮一60

六川真澄60　【47期】46人　伊藤次男59　上野平八郎60　大川悦生60　加藤文郎60　北沢和範60　沓掛元砥63　小山和弥65　小山金路59　桜木治吉59　沢木敬郎67　清水恵三66　関本秀治60　高見沢英一63　滝沢七郎60　土屋博61　花村義夫60　平川邦男59　牧内操61　三浦嘉治65　水野純60　宮原俊雄62　山崎栄一59　山崎善民60　【48期】56人　赤羽忠雄59　甘利尚人61　今井正明58　浦田光雄61　大平暁61　柿崎真吾61　川上道輔60　桐山博光61　児玉和男59　小林啓之介60　小林資治59　酒井寛文61　篠原泰司60　清水雄司59　春原寛63　竹内一夫62　竹内元幸61　田中克巳60　塚田正直61　富田幸正61　中沢利雄61　畠山寛61　古畑正明60　牧内清62　宮沢英人61

飯田久夫60　井出周利59　内片篤60　片山治夫60　金子宏60　清宮栄市58　窪田富男61　小山邦朋61　笹井博69　佐藤喬65　渋沢孝輔66　鈴木照明60　瀬在弘59　高見沢丈夫60　田沢徹61　中村義夫61　馬場善一60　深井明爾59　丸山栄一59　三井芳郎64　宮崎博文60　山岸五郎61　山崎繁広60　相田俊一61　秋山富雄59　伊藤正明60　岩井昭広60　大角栄一60　小木曽誠60　掛川欣也61　唐沢俊雄59　熊川次男61　小林和夫58　小林富士雄59　小林芳彦61　佐藤尚61　清水卓61　城下栄三郎61　高柳直樹62　竹内恵三60　竹花源内60　田原敬61　寺沢明60　中沢清男61　中村哲治61　平林直之60　掘内惇61　松本守弘61　宮山栄二65

村上信三61　山極喜三郎60　掘内哲郎61　【49期】40人　安部孝58　池田芳彦61　岩瀬一夫62　柿崎泰雄59　北沢昌永63　小林斉之介60　坂田信雄60　城下幸雄59　鈴木正治59　関根伸一59　滝沢栄62　竜岡桜61　鶴見慎一郎61　中山典之61　原猛59　平林潔60　前田芳造61　松本初男59　山浦健道59　依田郁男59　【50期】49人　飯島圭一60　石井一郎62　伊藤澄夫60　大塚文芳59　金井忠雄63　木内宏一60　久保田寛58　小宮山勇58　介川正明58　高畠通敏60　竹内啓爾64　塚田満61　富永繁59　新美毅59　藤城敏幸60　前田一人64　翠川一勲60　守屋定重59　山浦一徳61　山内重昭60　山辺文雄58　吉村洋一59　大熊和夫60　菱田誠64

柳沢健59　山崎延秋61　芦田純61　飯島重61　石井智憲58　上野貞夫59　川本豊59　久保利夫61　小林嘉六60　清水茂雄60　鈴木一彦60　鈴木武男57　滝沢明60　滝沢茂夫58　田中良尊61　中沢重夫61　西野入利雄61　原行明61　藤原実59　牧内泰道62　宮崎博60　山岸万亀男61　安藤信義58　五十嵐明迪60　石井敬二58　市村寿郎61　小野沢好61　唐沢英雄60　北川嘉一59　小泉悦也60　小山洋之介63　関和儀60　滝沢主計60　茅野忠重59　戸部登喜一60　新堀英行58　沼田淳61　星谷嘉一郎60　水野哲雄59　宮本嘉興60　柳沢洋一62　山浦弘夫60　山辺孔一59　吉池功59　渡辺洋一61　袖山睦啓60　宮原省三63

8面へ続く

年会費を頂かない大先輩会員

【5期】小山貞知▽山浦徳次郎【6期】玉井松雄▽千川才作【8期】岩下吉衛▽世良田進▽水野純▽宮坂峯【12期】太田八郎▽桂敏夫【13期】小山清右衛門▽志摩喜一▽志摩亮平▽佐藤五郎▽長井村三郎【14期】天田六郎▽荻原貞雄▽小山敬三▽坂口勇▽高木四郎▽塚田祐雄▽寺田秀▽広瀬頼彦【15期】佐藤壮六【16期】片岡武雄▽川瀬武雄▽児玉元一▽清水新作▽三井雄三郎▽宮川義治▽翠川一義▽横沢秀雄【17期】桑原藤馬▽小平貞介▽小林重郎▽関計▽富岡竜丸▽長沼忠昭▽鰭崎徹▽松原猪三郎【18期】石合忠雄▽宇野富雄▽小木曽恩▽長井盛至▽中沢恭太郎▽成瀬正成▽馬場和男▽伴琢磨▽松沢文雄▽宮島準三▽森義雄【19期】小泉栄次郎▽小泉四郎▽小滝顕忠▽渋谷訓憲▽馬場良太▽保坂政治【20期】石井保▽市村誉虎▽小口春司▽倉沢剛▽小泉亮一郎▽小林樵夫▽小林熊光▽小林健三▽小出年男▽児玉四郎▽塩沢洋一郎▽田口球司▽成沢潔水▽宮本静雄▽吉井道教▽和田斉【21期】芦田中▽岩根恒徳▽小池泰岳▽小林元仲▽近藤貞▽里見卓郎▽島川進▽島田次郎▽関光雄▽滝沢勝人▽土屋暹▽西沢慶二郎▽長谷川長兵衛▽平島実▽保坂正之助▽松平忠久▽矢島桂三▽山口定次郎▽若林泰三【22期】赤池明▽池田汪▽岩波東平▽小宮山主計▽小山礼吉▽柴崎菊雄▽下村敏▽城下武司▽諏訪好太郎▽本間茂▽翠川広一▽宮沢勝次郎▽横田栄一郎【23期】青柳忠三郎▽市川善三郎▽大森頼雄▽桑原民二▽小山朝政▽小山正雄▽甲田義雄▽樋口格▽別府滋樹▽渡辺武彦【24期】石井操▽石川秀敏▽太田道雄▽小山克二▽小林健道▽塩まさる▽滝沢中▽富岡秀▽柳沢晋一郎▽依田赳夫【25期】有賀正一▽石井正己▽石井義雄▽大谷邦康▽岡村盛太郎▽児玉晃▽後藤政一▽鈴木孝▽高島兵庫▽荻野嘉次▽馬場長市▽福田勝之助▽三井忠直▽宮入博▽三宅貞治▽母袋徳太郎▽柳田昌一▽山岸伐▽吉池良三

=以上一四四人の方は幹事会の決議で年会費をいただかない大先輩です。今後の納入はどなたさまもご放念下さい。

宮下俊夫（41期）

一級建築士事務所

（関東同窓会副幹事長）

国分寺市並木町3−33−13

☎ 0423−23−3492

太平洋汽船株式会社

常務取締役　正村吉徳（41期）

東京都千代田区神田駿河台4−1−2

☎ 03−293−2621代

（自宅）〒183

府中市新町1−31−7

☎ 0423−61−8618

生島信夫（41期）

東京都港区立教育センター

港区三田4−13−15

☎ 03−451−3221

（自宅）

世田谷区祖師谷2−2−19

☎ 03−482−0065

伊田幸雄（41期）

葛飾区学校給食協会事務局次長

葛飾区高砂3−10−1

☎ 03−658−9161

斉藤好一（41期）

（勤務先）

丸正チェーン商事㈱

☎ 03−355−2211代

（自宅）〒177

練馬区東大泉1−10−22

☎ 03−923−2675

7面から続く

【51期】44人
荒井信明59　飯塚寿61　池田義雄63　市川慶伍59　上原健史59　上原昇58　小野沢哲夫60　蒲生卓勝60　倉沢直哉60　児島和人60　滝沢堅60　竹内三男60　中島通明62　成沢誠司58　花岡利男62　掘内照雄60　丸山瑛一62　宮島武人60　村山寿男58　山辺俊一58　六川博輔60　永井洋司60

【52期】56人
石井正彦58　生駒利行59　石巻伸夫61　今井清水59　掛川正司60　掛川良治61　河野政人60　久保治良59　川村努59　小島芳次60　小林武彦62　小山堯志60　柴田正人62　新保知右喜58　関正利60　竹田守夫60　滝沢格59　田口修三郎69　浜野シメ59　古川一66　町島元喜61　松沢秀雄61　宮島尚雄60　森浩一59　柳沢孝寛60　山口直枝58　柳沢正光60

【53期】33人
上原林三61　小野沢光矩60　川村作子58　小林乾泰63　小山哲雄63　桜井功輝61　佐藤哲美59　須田武久61　塚田靖66　半田喜章60　藤森善也58　宮沢良和61　柳沢浩二60

浅野井哲60　有賀秀雄61　池田寛三59　井出英三郎58　上原英一59　上原隆雄60　臼田稔61　掛川国雄61　久保田豁60　小池尚古60　清水英明62　竹内克好58　田村忠男58　永野昭治59　西沢毅61　保坂利勝60　掘内弘栄58　宮川司60　村田寛60　桃井諦60　六川二郎61　滝沢英彦63

青柳位紗男61　飯塚和男63　石合正和60　伊藤裕幸58　上原佳和59　掛川十次郎59　加藤俊一61　北沢功60　川島慎59　古平伸吾61　小林孝典62　小林盛男58　佐藤雄三60　渋谷英雄60　関秀徳60　關木元徳59　高松健治64　竹鼻幸男63　橋爪今朝男61　浜村好宏59　本田忠62　松崎義一61　水出康雄61　宮島広人60　矢島寛文60　柳沢忠62　水沢富士雄59

岩田久59　宇田恒夫61　尾沢正毅59　小出武60　小山昌治59　甲田育也60　坂口茂広59　清水公寛61　高木快雄61　中沢哲58　樋川光彦59　松沢宏61　宮下善郎63　柳沢修二60

山岸一夫59　吉村晴夫63　金子節子62

【54期】40人
石原澄江59　大日方真61　河西秀夫59　倉島彰60　久呂貴代江58　小市則夫63　近藤正司61　滝沢義信61　土屋勝俊58　土屋悟59　中村至60　橋田ちせ61　浜村希志夫59　保屋野忠59　丸山恒60　宮本昌典59　八木繁実59　柳沢嘉計59　横関雅徳60　小山精良58

【55期】24人
池野厚59　上原尚61　木村和幸61　小池玲子62　滝沢勇夫61　鶴見貞夫60　中村省三59　長谷川正紘59　馬場俊造59　前沢繁59　宮入健二郎58　草間和子62

【56期】32人
飯高盛竃62　大塚明彦66　金井七郎61　小林英郷60　小宮山栄58　坂田治三郎60　佐藤英知58　瀬下正利58　竹内武59　長崎哲夫59　中山英之60　橋詰武佳59　藤原鎌之61

山本農夫雄61　若林清和60　清水敏夫59　有賀俊雄62　磯正泰60　小川広58　神林直彦60　黒川次郎60　小泉晃59　小林干城58　篠原亢司60　竹花正章59　土屋晃一61　成田崇宏61　橋詰守人60　馬場武彦62　藤村延男61　星野賀永59　三木光一59　松林寿夫59　柳沢明60　矢花信行60　吉池昭夫60

飯島慶三郎60　有賀文昭59　小野沢和平59　興水俊昭61　清水好昭59　塚田忠夫66　長峯道明58　成沢祐介62　波田野彰59　掘内良行61　町島正敏63　和田守66

赤尾信吉60　上原清治61　岡田健治59　小平節夫60　小山荘司61　神津進62　笹沢政道59　柴田義人58　鷹野致知59　長坂光登61　中村勉60　西島幹夫59　羽島昭一59　村井弘59

柳沢義孝58　吉池鴻充60　渡辺善国59

【57期】40人
有井毅59　上原宏59　臼田茂二62　大谷光弘60　岡村潔60　川上啓示60　神林英男58　小泉義博58　小林克二58　篠原秀則60　関行裕61　田沢雄二郎61　箱山寵65　藤田昌茂59　前田由美子61　三井寛夫61　望月英明60　山崎紀夫63　和田日出光58　加賀美欣二郎60

【58期】34人
井沢敬59　伊藤孝61　大橋弘61　片岡春雄61　後藤史郎60　小林紘正60　斉藤宣彦59　桜井忠司58　杉浦晧充61　手塚洋兵59　中島秀忠61　仁平光義61　林嘉一63　宮下秀久60　宮原昭次郎61　矢島瑞夫63　依田茂久60

【59期】23人
荒井長利60　池田憲計60　尾和剛一60　重原正治59　清水候博61　関和明58　塚田達樹61　萩原清人59

山口周59　若林克寿60

赤尾睦男58　池田教範62　碓井栄一60　榎本金二61　岡川章夫61　片桐康男60　神田昇64　桑原恒雄59　小島吉男59　小林恒男60　杉原弘一61　滝島聡60　竹内昭61　平林弘義59　本田昌彦60　松田光一61　宮坂幸雄60　両角正海59　横沢武久58　鈴木芳枝61

赤池三男60　伊藤啓治61　伊藤文明58　大平賢61　鎌原昭治60　小林俊雄60　小山太郎68　桜井兼三60　篠崎名里子59　滝沢一彦60　寺島紘士61　西沢益男60　波田野浩60　掘内昭63　宮原清明61　百瀬和紀61　柳沢義孝61

甘利武司61　有賀勝雄62　石塚洋一61　桜井資悦60　柴田武彦59　下村憲司60　田村功60　寺島知恵子60　長谷川久二60

藤井彰62　柳沢孝彦61　浦原則夫58

【60期】19人
今井勇雄63　荻原英男60　小林秀芳60　駒村宏一60　清水幸雄58　田中純58　田中良樹61　羽毛田信60　服部与治59

【61期】19人
井上剛63　大沢義隆58　荻原隆司62　笠井徳爾61　沓掛忠61　清水勝紀59　高山時彦59　掘内寿美61　吉沢善男60

【62期】17人
岩井重一65　片山隆行59　唐沢重雄58　栗山正雄61　田島善光61　中村房子62　深町茂60　依田欣五郎60

【63期】19人
大井俊彦60　川村恭司61　小池平一郎59　高見沢治61　武井長久60　中沢良寿59　成沢三雄60　林壮治61　山口芳輝61

【64期】11人
岩崎民雄59　岡木秀生60　金井修治60　田中学60　山崎直木61

【65期】14人
岩間英雄59　倉沢斉59

藤原秀臣60　山口元彦61　峯村誠次58　青柳借行60　臼田久米雄61　黒沢博身60　甲田健60　桜井修一60　田中一穂60　田中誠一61　戸塚武雄60　横本隆弘60　福島宣60　井上希代子60　大井剛60　大谷高義61　奥村喜美子61　川合宣勝60　小山満58　高橋宗雄60　玉木純雄60　宮島英紀61　三井文人57　秋田勇63　荻原栄人61　片山登喜男58　栗林久雄59　滝沢淳60　中野敬三63　中村真一61　諸岡健児59　渡辺幸治61　市村富男60　上条和祥58　木村公平60　小林正則61　高柳博幸60　角田玲子60　中山和彦61　西沢信幸60　細谷勝夫58　山本寿美子59　一瀬清治60　内川栄久60　掛川修身60　大工原学60　山崎一郎61　塚田高明57　伊藤高志59　折井正博60　笹川光57

清水良子59　戸叶秀晴60　村井順一60　山浦敬夫60　横関洋一60

【66期】16人
今井郷子59　大槻利雄60　尾崎幸夫62　北沢英男60　関伸一58　田口博62　田中富昭60　深町茂59

【67期】5人
小山正樹61　花見順60

【68期】22人
井部才揮58　小淵一夫58　小林照明61　斉藤忠雄60　芝間伸剛58　関文治61　竹内俊隆61　土屋博光59　松山研治60　宮川俊晴59　宮原友和58

【69期】16人
太田喜久子59　小市章洋59　鈴木賢二59　栃原重文61　藤谷芳子60　前田啓子61　山極道生58　神楽政明59

【71期】1人
坂口洋三63

【74期】2人

【75期】1人

【76期】2人
若林理枝57

【77期】3人
坂田正明60

【78期】10人
加藤教二59　小林剛59　竹花真理子60　西入秀明59

高藤俊夫58　宮川恵三59　安田務58　山辺良樹61

浅野俊二61　植松文江60　荻原隆58　片山義60　清水正幸60　関口信58　田島正蔵59　平野成基61

生島久資59　坂口公一61　日向純一58　池田修58　尾台孝男58　黒岩寿久59　小山実58　斉藤正宏58　杉本真理子62　西沢将徳58　土屋耕太郎61　松本直安58　丸山洋一58　宮崎直之59

池田泰子58　黒田英臣61　下村文彦60　関和義61　鳥羽喜幸59　古畑克己60　村尾正子59　吉村邦彦64

小林一輝60　高橋あゆ美60

横田光幸60　清水順三60

北沢恵子59　土屋忍57　鵜殿理枝59　片岡千晴60　佐藤聖子60　所由美59　服部彰夫62

藤本芳房59

【79期】14人
石黒周司61　荻原悦夫59　田中宏60　戸田有一59　清水幸雄58　長岡秀樹61　若林明美57

【80期】20人
岡成樹58　倉島光枝60　近藤真理子59　塩島己季60　田中郷子60　西沢慶二郎60　藤沢あけみ60　水科孝文59　矢島優子60　山極信二60

【81期】10人
小野沢広栄61　中村和広62　西沢知樹61　橋爪俊彦60　島田亮57

【82期】4人
近藤栄59　牧内淳一59

【83期】1人

池田俊明59　荻原敏明60　竹内富士子61　田村英男59　佐藤勝寿62　長井喜久子60　淵田栄治58

今井隆志61　金子和寛60　久保田浩美60　掛川剛行58　清水茂夫60　寺西浩60　羽毛田克信59　町田八栄子58　村上勇介59　山崎敏夫61

上原康裕59　網島秀樹59　中村直木60　樽原竜太郎58　柳沢和男60　金子康成59　重藤知夫59　中村浩子60

住所変更

79期 荻原悦夫－181三鷹市深大寺三九一七秋元荘に移転。
35期 柳澤義房－275習志野市津田沼2－11－28
57期 岡川章夫－270－11我孫子市つくし野1－11－10

おくやみ

・14期 小宮山達殿　昭和五十六年六月死去
・15期 池田広殿　昭和六十年二月二十七日死去
・15期 山崎秀雄殿　昭和五十八年三月死去
・16期 塚田耕三殿　昭和五十八年四月十二日死去
・21期 所興曽平殿　昭和五十九年九月死去
・21期 矢島邦助殿　昭和五十八年九月死去
・34期 鴇沢真利殿　昭和五十九年十二月死去
（以上何れも家族から通知）
・33期 清水良一殿　昭和六十年十月十日死去
同期の弘世弘信氏より通知
・25期 横山六郎殿　昭和六十年六月六日
ご家族より電話報知あり。
・23期 市川善三郎殿　昭和六十年五月五日
・23期 青柳忠三郎殿　昭和六十年六月二十日
以上両名について同期の大森頼雄氏より通知あり

事務局日誌

▼5月12日　会報発送のための作業アルバイト10名
▼5月13日　大会招待状母校外18通、会報1326通発送
▼5月14日　清水機男氏外6名宛会報225通発送。
▼5月15日　会報印刷代327、960円送金支払い。
▼5月16日　島田次郎氏よりの依頼により遠藤憲三氏へ会報5部発送。
▼5月17日　矢島五郎氏へ130部、伊藤稔寿郎氏へ30部会報発送。
▼5月19日　林嘉市氏へ50部青木淳民氏へ16部、奥村昌機氏へ20部会報発送。
▼5月21日　東信地区同窓連会総会、於健保会館、神野浅野、柳田、清水、長藤本部役員出席。
▼5月22日　西沢弥八氏へ会報20部発送。
▼5月30日　大会受付係47期と本部役員との打合せ　於八峰閣。
▼6月2日　大会準備に会長宅へ浅野、柳田、清水、長藤、宮下、馬場、赤池の本部役員集り、出席者名簿作成、手拭関係書類等封筒詰め。
▼6月5日　第24回大会（総会）於東条会館（詳細別掲）
▼6月10日　成田澄男氏、松井智明氏へ会報発送。
▼6月17日　33弘世弘信氏より以下九名の退会報告あり、五十嵐八郎氏、坂本俊夫氏、池田久夫氏、山崎嘉久治氏、佐藤次男氏、森五郎氏、椎塚三夫氏、飯島力夫氏、豊田康雄氏以上いずれも33期
▼6月20日　本部役員会、大会決算並びに反省会。
▼7月27日　長野県高校同窓連総会、於健保会館、浅野以下四名本部役員出席。
▼7月29日　第一回基金特別委員会開催
▼8月29日　代表幹事会開催
▼9月20日　一般幹事会開催
▼9月23日　染谷丘高校東京同窓会に招待を受け、神野以下4名出席
▼9月26日　東京柔和会に招待、神野出席
▼10月13日　事務局に於て、柳田、長藤会務整理
▼10月14日　代表幹事宛、趣意書発送する。
▼10月5日　会報委員会。第34号製作のため第一回編集会議。
▼10月18日　会報委員会。34号の編集作業、分担など打ち合わせ。
▼10月29日　新橋・新光印刷KKで会報第34号の校正、大組みのため会報委員および広告担当の32期、41期の責任者が出張作業。翌30日刷了。

編集後記

今号は投稿をたくさんいただいた。何よりも有難い。加えて広告担当の32、41期の幹事諸兄のがんばりで、広告も大幅に増段になった。これもたいへん有難い▼しかし紙面スペースは限られている。苦心してみたのだが、総会での韮沢先輩の貴重な講演内容をはじめ、幾つかの寄稿を割愛せざるを得なかった。申しわけない▼会報は会員みんなの機関紙である。同期会レポートをはじめ投稿はあまさず載せたいのだが、間々当惑するのは長文にすぎる玉稿である。無暗に削ることもはばかられるし、といって一、二の人に紙面を独占させるのもうまくないし、困る▼どうか原稿はなるべく簡潔に、できたら千字ほどにまとめ、他の人にもスペースを分けてやって下さい▼本号から真ん中の四面、五面を分離した。従来ひと続きで広く編集していたがとじたりファイルしたとき、読みにくいという声が少なくないのでこれにこたえたもの。

【本号の部数と配布先】
▽印刷部数三八〇〇▽会員への郵送一三〇〇▽母校へ一括贈呈一四五〇（在校生全員と教職員分）▽同窓会本部へ一括贈呈三〇〇（旧職員、市役所、在上田高校教員室宛を含む）▽同窓会長野支部一五▽同北海道部一五▽在京友誼校同窓会へ一〇〇▽販売用四〇〇▽次号編集および広告事務用七〇▽本部保存および予備一五〇

以上は概数。販売用というのは会員の中に在郷の同期生や知己に贈るためまとめて購入する向きがあるため。一部五〇〇円いただいている。必要な方神野会長に申し込まれたい。

（編集委・37浅野）

綿貫隆正（32期）
正福寺住職
上田市秋和550
☎ 0268－22－4199

財団法人 上田市体育協会会長
若林正五（32期）
上田市緑が丘1－21－4
☎ 0268－23－1380

日本人形劇人 理事長
国際人形劇連盟評議員
上田次郎（32期）
東京都練馬区大泉学園町5－18－20
☎ 03－924－2520

荻野右中（32期）
横浜市神奈川区白幡仲町76
☎ 045－421－1593

土屋勉（32期）
（Z会増進会）
前橋市日吉町1－12－5
☎ 0272－31－4698

平尾陸郎（32期）
千葉市鎌取町112－12
☎ 0472－64－5977

大津義雄（32期）
東京都練馬区桜台3－35
☎ 03－991－8944

児玉浩（32期）
（武蔵野市教育委員会）
東京都新宿区上落合3－8－14
☎ 03－361－8867

限りなき躍進を続ける青果物移出問屋
東部青果株式会社
代表取締役　関　透（33期）
本社　長野県小県郡東部町常田136　☎0268－62－0158（代表）
直産スーパー　マルト
所在地は上記本社と同じ　☎ 0268－62－3018　0268－64－2477
贈って喜ばれる県産・特産物
取扱品目　信州りんご・東部町特産巨峰・同クルミ・野沢菜漬　山菜詰合せ・その他各種
★ご一報下されば詳しいパンフレットをお送りします

永井義一（32期）
川崎市中原区小杉陣屋町1－833
☎ 044－722－0477

荻野左中（32期）
横浜市神奈川区白幡仲町76
☎ 045－421－0260

家庭学習指導協会
外山正博（32期）
啓文館出版株式会社
本部　渋谷区代々木1－31－6　今田ビル2F
☎ 03／375－1269代

石井満明（32期）
川崎市高津区下作延1928
☎ 044－822－4215